千原光雄： 中国における藻類研究の現状 (2) Mitsuo CHIHARA : Phycological research activities in China (2)

2. 中国科学院海洋研究所（青島） Institute of Oceanology, Academia Sinica (Quingdao). 青島南海路7号

中国における最初の海洋研究施設として1950年8月に中国科学院海洋研究室 (Marine Biological Laboratory of the Academica Sinica) として設立された当時は研究員は僅かに10名であったが，その後1957年に海洋生物研究室 (Marine Biological Institute) と名称を変え，さらに1959年に現在の名称の海洋研究所 (Institute of Oceanology) となるに及び規模は拡大した。現在は9研究室から構成され，職員数は約500名で，海洋研究の一大総合センターの役割を果している。各研究室の名称は次のようである。1）物理海洋学研究室 2）海洋地質学研究室 3）海洋化学研究室 4）海洋工学研究室 5）海洋植物研究室 6）海洋無脊椎動物研究室 7）海洋脊椎動物研究室 8）海洋実験動物研究室 9）情報部門。なお研究所は上記のほかに3隻の研究船と工作室をもち，さらに，アクトロンを建設中である。

この研究所の所長は藻学者，特に海藻研究者として著名な曾呈奎 (C.-K. Tseng, 中国で新たに定めた綴では C. Zeng と書く) 教授である。アサクサノリの生活史を研究し，糸状体の胞子に殻胞子 (conchospore) の名称を提唱するなど，私達日本人にも馴染みの深い曾教授は研究所長と海洋植物研究室(Department of Marine Botany) の室長を兼務される。中国における海産植物研究の中心であるこの海洋植物研究室は7つの組 (section) と78人の職員（内研究員・技術者50人）から構成される大きな部門で，主な研究テーマは，1）中国沿岸の海産植物の分類と分布の研究，特に中国海産植物誌の編纂，2）海産植物の基礎的研究特にそれらの発生生物学と進化生物学的研究，3）海中農業の基礎的研究とその実際に関する研究，4）養殖品種の育種と遺伝の研究，5）中国とその隣接海域の海産植物の生態と生産力の研究，6）沿岸海域の環境汚染と保護の研究などである。

研究室を構成する7組の名称と組長名を次に記す。なお，中国の国立研究所の研究室と組は，日本の研究機関の研究部と研究室にそれぞれ相当すると考えてよい。1）海産植物分類形態組（組長・張徳瑞），2）植産植物生理組（呉超元），3）海産植物実験生態組（費修綆）4）海産植物光合成組（曾呈奎）5）海産植物遺伝・育種組（李家俊） 6）海産微生物組（陳騁弱） 7）海産浮遊植物組（郭玉潔）。この研究部門が挙げた研究成果については，本誌(藻類 20：(1) 及び (2)，1981) に論文リストが掲載されているので参照いただきたい。今回訪れたいずれの研究機関でも話の出たことの一つに1970～78年の文化革命期間中の研究活動の低下があるが，このリストからもその状況が伺える。現在遅れをとり戻すべく研究員達は大変な努力をされているという。1983年にここ青島市における国際海藻会議 International Seaweed Symposium の開催引受けは，そうした熱意と意欲の表われであり，現在曾呈奎教授を中心に準備は着々と進められつつあるという。

青島市は山東半島の南岸に位置し，1898年に租借し

図左．中国科学院海洋研究所（手前）と1983年の国際海藻会議の宿舎に予定されるホテル滙泉賓館。
図右．前列左より曾呈奎所長，筆者，費修綆研究員（海洋研究所玄関にて）。

たドイツにより街作りが行われた近代的都市で，一見ヨーロッパの街並を思わせる。街は美しく，風光は頗る良い。大型機用の飛行場がないため，交通は陸路か海路による。私は北京一青島間を汽車（火車）で往復したが，片道約17時間，広軌で寝台車の乗心地は快適であった。幾つもの楽しいエクスカーションを海藻会議のために企画中とのことであり，一人でも多くの日本の方達の参加を希望するとのことであった。

上記の国立海洋研究所のほかに，青島市には，藻類を研究する機関として，黄海水産研究所と山東海洋学院がある。前者は国家水産総局に属する国立水産研究所で，中国南部の広州にある南海水産研究所と中央部の上海にある東海水産研究所とともに，中国海域の水産の調査研究・指導等に従事する。所長は劉恬敬氏，養殖研究室主任は索如瑛女史で，藻類関係では主としてコンブ類（海帯），アマノリ類（柴菜）の養殖と育種の研究，餌料藻類の研究などを行い，さらにここ数年（1978年より）はメキシコより移入したマクロキスチス（*Macrocystis*）の養殖の研究も行っている。後者の山東海洋学院は中国の32重点大学の一つで，海洋生物学部（科），海洋物理学部，海洋化学部など，計7学部（Departments）から構成され，学生数は約1700人であるという。藻類関係の研究者及び技術者として副学長の方宗熙教授（遺伝学，特にコンブの遺伝・育種），鄭伯林副教授（海藻の分類），張定民副教授（海藻の養殖）等計10数名が勤務する。

青島滞在中は特に海洋研究所の曾呈奎所長と費修絅研究員にお世話になった。厚くお礼を申し上げたい。

（305 茨城県新治郡桜村，筑波大学生物科学系）

賛助会員

北海道栽培漁業振興公社　060 札幌市中央区北4西6　毎日杉幌会館内

阿寒観光汽船株式会社　085-04 北海道阿寒阿寒群町字阿寒湖畔

海藻資源開発株式会社　160 東京都新宿区新宿1-29-8　財団法人公衆衛生ビル内

協和醗酵工業株式会社バイオ事業本部バイオ開発部　100 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル

全国海苔貝類漁業協同組合連合会　108 東京都港区高輪2-16-5

K.K.白壽保健科学研究所・原　昭　邦　173 東京都板橋区大山東町32-17

有限会社　浜野顕微鏡　113 東京都文京区本郷5-25-18

株式会社ヤクルト本社研究所　189 東京都国立市谷保1769

山本海苔研究所　143 東京都大田区大森東5-2-12

秋山　茂商店　150 東京都渋谷区神宮前1-21-9

弘学出版株式会社　森田悦郎　214 川崎市多摩区生田8580-61

永田克己　410-21 静岡県田方郡韮山町四日町227-1

全漁連海苔海藻類養殖研究センター　440 豊橋市吉田町69-6

神協産業株式会社　742-15 山口県熊毛郡田布施町波野962-1

有限会社　シロク商会　260 千葉市春日1-12-9-103